

ラジオカセットコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます

警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

TCM-F59

Sony Corporation © 1996 Printed in Malaysia

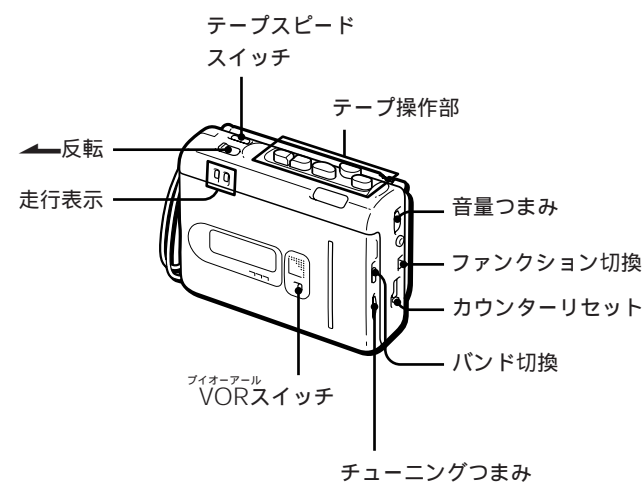
ご注意

- 録り直しのきかない録音の場合は、必ず事前にためし録りをしてください。
- 録音をするときは、VORスイッチの「入」切」をご確認ください。
- カセットコーダーの不具合により録音されなかった場合の録音内容の補償については、ご容赦ください。

主な特長

- TV/FM/AMの3バンドチューナー。
- テープの裏表を確かめずに早送り、巻き戻しができる簡単早送り/巻き戻し付き、録再オートリバース。
- 発言者の声を明瞭にとらえるBoundary effect(取音方式の、フラットマイク内蔵)。
- 一定の強さ以上の音声を検出して自動的に録音が始まり、それ以下の音声になるとテープが止まる、VOR(自動録音スタート)機能。
- 大音量スピーカー(モノラル)。
- 3段階のランプで知らせる、電池残量表示。

各部のなまえ

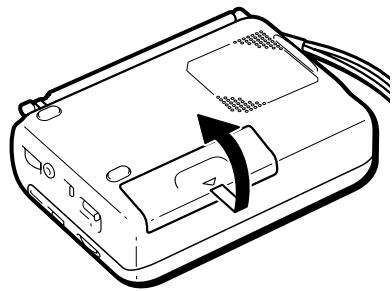


乾電池を入れる

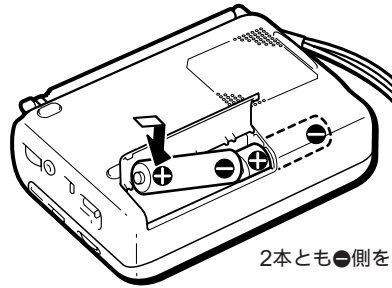
ここでは乾電池での使いかたを説明します。コンセントでの使いかたは、「電源について」をご覧ください。

1 付属の乾電池を入れる

①押しながら矢印の方向へずらし持ち上げる



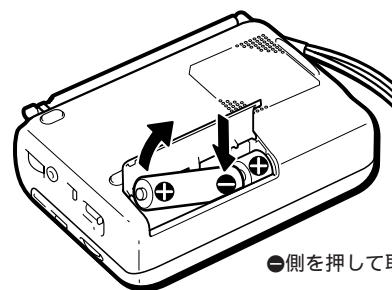
②単3形乾電池を入れる



ご注意

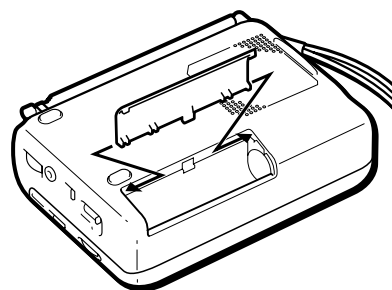
新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。

乾電池を取り出すときには



電池入れのふたがはずれたときは

電池入れのふたは、開けるときに過大な力を加えると、はずれるようになっています。はずれた場合は図のように取り付けてください。

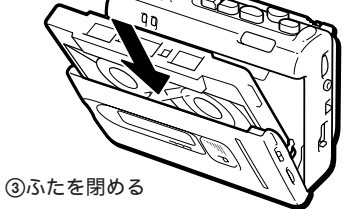


テープを聞く

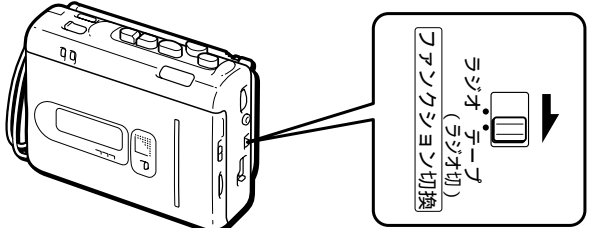
内蔵スピーカーから音が聞こえます。TYPE I(ノーマル)テープをお使いください。

1 カセットを入れる

①手でふたを開ける ②聞きたい面をふた側にしてカセットを入れる

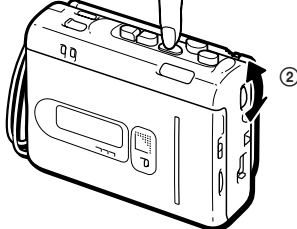


2 ファンクション切換を「テープ(ラジオ切)」にする



3 再生する

①再生を押す



おもて面から再生が始まり、うら面も続けて再生します(オートリバース)。うら面が終わると自動的に止まります。

操作	押すボタン、ずらすスイッチ
テープを止める	停止
一時停止する	←一時停止
	一時停止を解除するには ←一時停止を元に戻す。*
テープのうら面だけを聞く	←反転をずらして走行表示を「うら面」にしてから、再生
早送りする**	早送り/キュー
巻き戻す**	巻き戻し/レビュー
音を聞きながら	再生中に早送り/キューを押し続ける
早送りする(キュー)	
音を聞きながら	再生中に巻き戻し/レビューを押し続ける
巻き戻す(レビュー)	
再生面を変える	←反転

*一時停止は 停止ボタンを押した場合にも自動的に解除されます(ストップボーズリリース機能)。

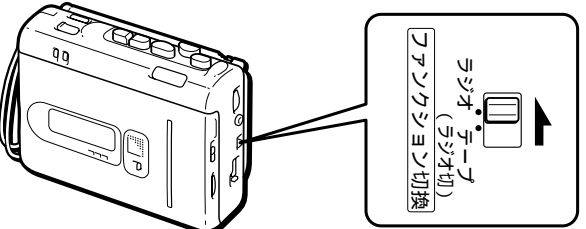
**早送り、巻き戻しときはテープの終わりで自動的に止まり、電源が切れます(フルオートシャットオフ機能)。

イヤホンで聞くときは

別売りのイヤホンをイヤホンジャックに差し込みます。

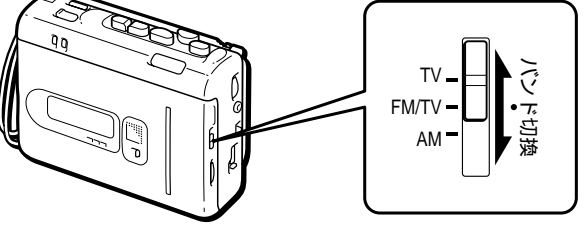
ラジオやテレビの音を聞く

1 ファンクション切換を「ラジオ」にする

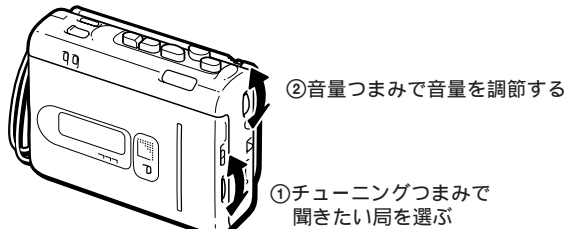


2 聞きたいバンドを選ぶ

TV(4-12ch): TV
FM/TV(1-3ch): FM/TV
AM: AM



3 聞きたい局を選ぶ



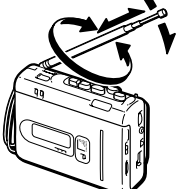
ラジオを止めるには

ファンクション切換スイッチを「テープ(ラジオ切)」にします。

受信状態を良くするには

FM放送やTV放送

ロッドアンテナの長さや角度を調節します。



ご注意

- ロッドアンテナを無理な方向に向けようとすると、折れることがあります。
- イヤホンで聞くときは、イヤホンコードがアンテナとして働きます。コードは長く伸ばしてお使いください。

ラジオやテレビを受信中は

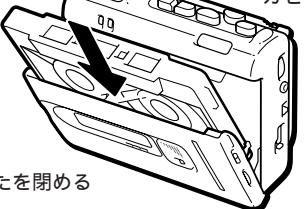
- ラジオやテレビの音声をステレオで聞くことはできません。
- 金属ハーフのカセットテープ、またはラベルが金属製のものをお使いのとき、受信周波数が多少ずれたり、選局がしにくくなったり、AM受信の感度が落ちたりすることがあります。このようなときは、カセットを取り出してください。

ラジオやテレビの音を録音する

録音には必ずTYPE I(ノーマル)テープをお使いください。

1 カセットを入れる

①手でふたを開ける ②録音する面をふた側にしてカセットを入れる

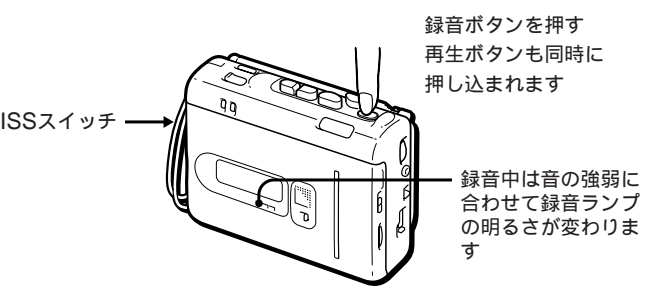


2 録音する局を受信する

「ラジオやテレビの音を聞く」をご覧ください。

3 録音する

おもて面から録音が始まり、うら面も続けて録音します(オートリバース)。うら面が終わると自動的に止まります。



操作	押すボタン、ずらすスイッチ
録音を止める	停止
一時停止する	←一時停止
	一時停止を解除するには ←一時停止を元に戻す。*

*一時停止は 停止ボタンを押した場合にも自動的に解除されます(ストップボーズリリース機能)。

良い受信状態で録音するには

AM放送を録音中、ラジオを聞いていたときには出なかった雑音(ビート音)が聞こえたら、ISSスイッチを切り換えて、雑音が消える位置(1, 2または3)にしてください。

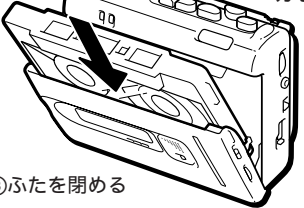
あなたが録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。

内蔵マイクから録音する

内蔵マイクですぐに録音できます。録音にはTYPE I(ノーマル)テープをお使いください。発言者の声をフラットマイクで明瞭に録音するために、本機を机などの固い面に水平に置いてください。

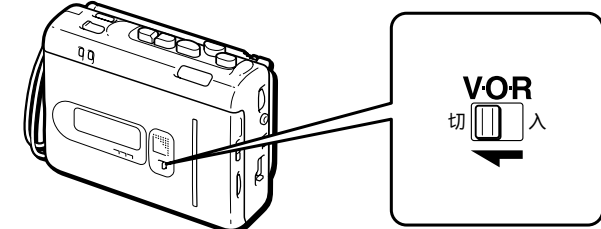
1 カセットを入れる

①手でふたを開ける ②録音する面をふた側にしてカセットを入れる



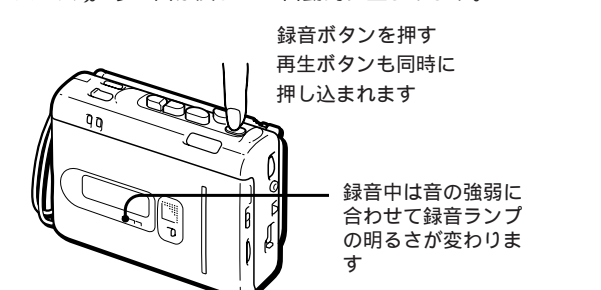
2 VOR(自動録音スタート)機能を「切」にする

ここでは通常の録音のしかたを説明します。VOR機能は「切」にしておいてください。VOR機能を使った録音については、「いろいろな録音のしかた」をご覧ください。



3 録音する

おもて面から録音が始まり、うら面も続けて録音します(オートリバース)。うら面が終わると自動的に止まります。



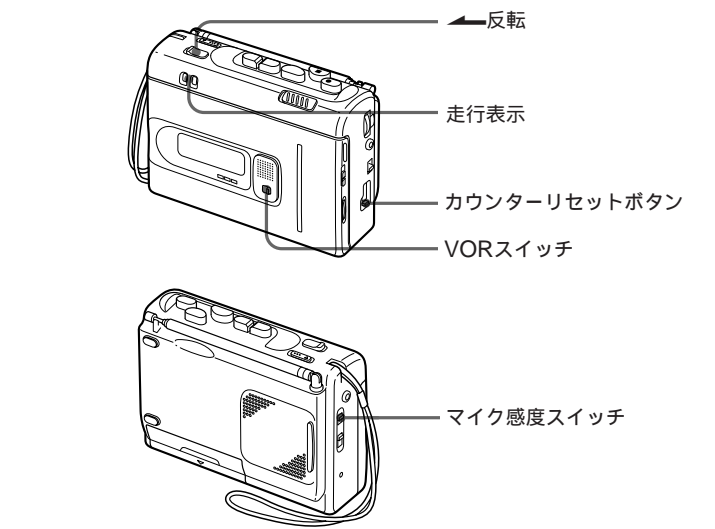
操作	押すボタン、ずらすスイッチ
録音を止める	停止
一時停止する	←一時停止
	一時停止を解除するには ←一時停止を元に戻す。*

*一時停止は 停止ボタンを押した場合にも自動的に解除されます(ストップボーズリリース機能)。

録音中の音を聞くには

別売りのイヤホンをイヤホンジャックにつないで聞きます。音量つまみで音量を調節します。録音される音は、聞いている音量に影響されず一定です。録音中はスピーカーからは音が出ません。

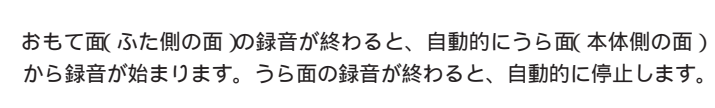
いろいろな録音のしかた



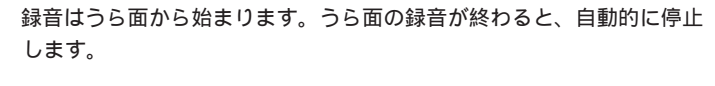
録音する面を選ぶ

両面を続けて録音する

- 録音を始める面をふた側にしてカセットを入れます。
- テープ走行表示が「うら面」になっているときは、←反転スイッチをずらして走行表示を「おもて面」にしてから録音します。



おもて面(ふた側の面)の録音が終わると、自動的にうら面(本体側の面)から録音が始まります。うら面の録音が終わると、自動的に停止します。



片面だけを録音する

1 録音をする面を本体側にしてカセットを入れます。

- テープ走行表示が「おもて面」になっているときは、←反転スイッチをずらして走行表示を「うら面」にしてから録音します。

録音 / 再生時の表示	
← おもて面 → うら面	おもての面を録音 / 再生中
← おもて面 → うら面	うらの面を録音 / 再生中

テープカウンターの見かた
テープはおもて面を走行中は数字が増え、うら面を走行中は数字が減っていきます。カウンターリセットボタンを押すと000に戻ります。

マイク感度を調節する

別売りのイヤホンを使って録音中の音を聞きながら、録音状況に合わせてマイク感度を選んでください。

録音の状態	マイク感度スイッチ
遠くの音や小さい音を録音する(例：会議を録音するとき)	高
近くの音や大きい音を録音する(例：マイクを口元に近づけて録音するとき)	低

音がしたとき自動的に録音を始める(VOR機能)

VORスイッチを「入」にして録音します。

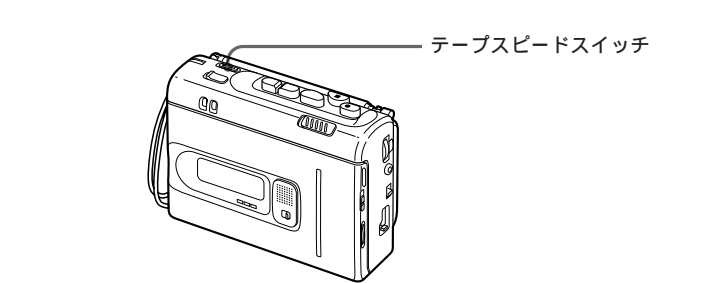
VOR機能を使うと、ある大きさ以上の音をマイクが拾うと自動的に録音が始まり、音が小さい状態が続くと止まります。録音の途中でテープを止める手間がはぶけるので口述録音するときに便利です。



ご注意

- VOR機能は周囲の環境に左右されます。状況に合わせてマイク感度スイッチを「低」または「高」にしてください。マイク感度スイッチを操作しても思い通りに録音できないときは、VORスイッチは「切」にしてください。
- 音を感じてから録音が始まるので、言葉の初めの部分は録音されないことがあります。大切な録音のときはVORスイッチを「切」にしてください。

再生の便利な機能を使う



再生速度	スイッチの位置
ゆっくり再生する	遅い
通常で再生する	定速
速く再生する	速い

再生速度を調節する

テープスピードスイッチを次のように切り換えてください。

テープスピードスイッチ	
← テープスピードスイッチ	テープスピードスイッチ
← テープスピードスイッチ	テープスピードスイッチ

後追い録音をする
再生中に 録音ボタンを押すと、そこから録音状態になります。録音されたものの一部分を修正したいときなどに便利です。

録音したものをすぐに聞く(ワンタッチレビュー)

録音中に巻戻し / レビューボタンを押すとテープが巻き戻され、手を離すとそこから再生が始まります。

外部マイクや他の機器から録音する

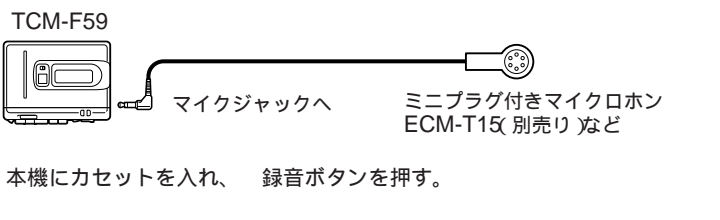
本機で録音中の音を聞くときは、別売りのイヤホンを使います。状況に合わせて、VOR機能の入/切とマイク感度を選んでから、録音を始めます。

ご注意

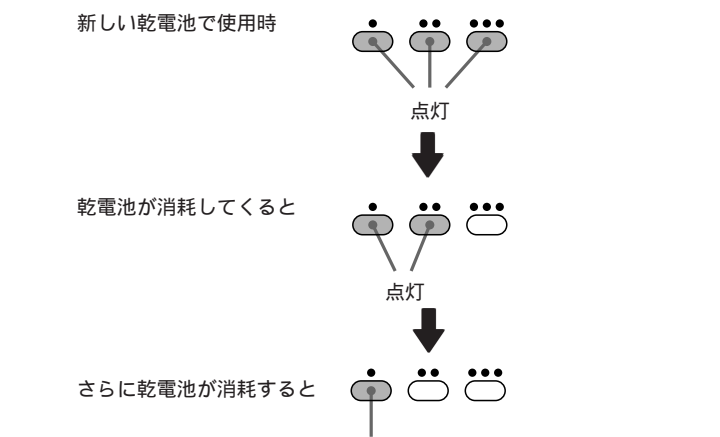
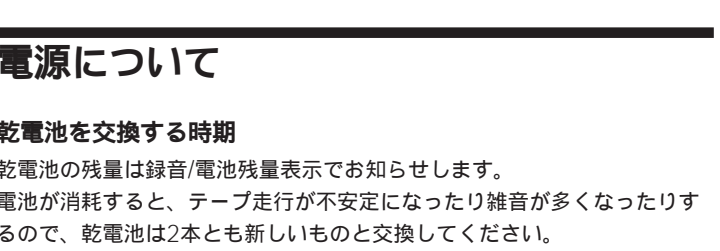
- 接続コード類のプラグはしっかり差し込んでください。
- 接続や音量調節の失敗を防ぐため、本番前に試し録音をしてください。
- 下の例はソニー製品の場合です。他社製品との接続がうまくいかないときは、その製品の説明書をご覧ください。

外部マイク(別売り)で録音する

マイクジャックにプラグをしっかり差し込むと、内蔵マイクは自動的に切れ、外部マイクの音を録音します。プラグインパワー対応のマイクを使うとマイクの電源は本機から供給されます。



他の機器から録音する

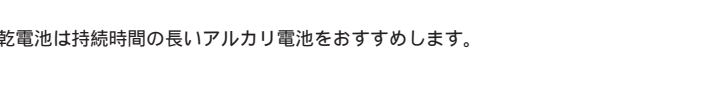


ご注意

- 別売りの充電式電池でお使いの場合、充電してあっても録音/電池残量表示は左側と中央のみが点灯することがあります。
- 乾電池が消耗してくると、再生中に音量を上げたときなどに録音/電池残量表示が音に応じてちらつくことがあります。乾電池を交換する必要はありません。
- 録音/電池残量表示の左側が暗くなくても、しばらくはテープが正常に動きますが、内蔵スピーカーから大きな雑音が出たり正しく録音されていないことがありますので、必ず乾電池を交換してください。

使用乾電池	ソニー乾電池 R6P (NS)	ソニーアルカリ乾電池 LR6(N)
FM録音時 (EIAJ)	約1.5時間	約6時間
テープ再生時 ^{*2} (EIAJ)	約2時間	約7時間

^{*1} EIAJ(日本電子機械工業会)の規格による測定値
^{*2} 音量7分目程度で再生した場合



乾電池は持続時間の長いアルカリ電池をおすすめします。

コンセントにつないで使う

- ACパワーアダプター AC-E30L(別売り)を本体側面にあるDC IN 3Vジャックにつなぎます。
- ACパワーアダプターをコンセントにつなぎます。



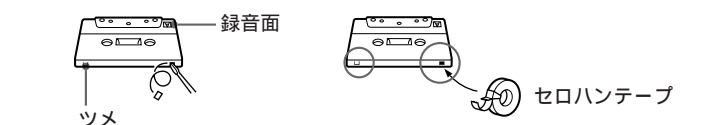
ご注意

録音について

- 録音には必ず TYPE I(ノーマル)テープをお使いください。TYPE II(ハイポジション)TYPE IV(メタル)では正しく録音されません。
- マイクジャックに外部マイクや接続コードが差し込まれていると、内蔵マイクを使つての録音はできません。
- 内蔵マイクを強く押さないでください。マイクが変形し、雑音の原因となります。
- 録音中、マイクを電灯線や蛍光灯に近づけすぎると、ノイズが入ることがあります。
- 内蔵マイクで録音中はスピーカーから音は出ません。別売りのイヤホンで聞いてください。
- 録音中の音をイヤホンで聞いているとき、音量を上げすぎるとイヤホンの音をマイクが拾い、ピーという音が生じることがあります(ハウリング現象)。この場合は音量を下げてください。
- 録音中はテープスピードの調節はできません。

大切な録音を守るには

- カセットのツメを折ると、録音できなくなるので誤って消してしまうミスが防げます。ツメを折っても穴をふさぐと再び録音できます。



取り扱いについて

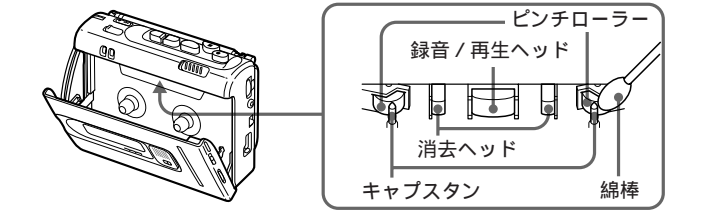
- 落としたり、強いショックを与えたりしないでください。故障の原因になります。
- 次のような場所には置かないでください。
 - 温度が非常に高いところ(60 以上)。
 - 直射日光のあたる場所や暖房器具の近く。
 - 窓を閉め切った自動車内(特に夏季)。
 - 風呂場など湿気の多いところ。
 - 磁石、スピーカー、テレビなど磁気を帯びたものの近く。
 - ほこりの多いところ。
- 長時間テープについて90分をこえるテープは非常に薄く伸びやすいので、こきざみな走行、停止、早送り、巻き戻しなどを繰り返さないでください。テープが機械に巻き込まれる場合があります。
- 長い間使わなかったときは再びお使いになる前に、数分間再生状態にして空回しをしてください。良い状態でお使いいただけます。

キャッシュカードや定期券などで、磁気を利用したカード類をスピーカーに近づけると、マグネットの影響で磁気が変化してカードが使えなくなることがありますので、ご注意ください。

万一故障した場合は、内部を開けずにお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

お手入れ

良い音で録音/再生のために
録音/再生ヘッドが汚れてくると、録音/再生音の音質が悪くなったり、録音できなくなることがあります。10時間程度使ったら、ヘッドとキャプスタン、ピンチローラーを別売りのクリーニングキットKK-41などできれいにしてください。



本体表面が汚れたときは

水気を含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナーやベンジン、アルコールは表面の仕上げを傷めますので使わないでください。

故障かな？

修理に出す前にもう一度お調べください。	
症状	原因 / 処置
録音できない。	<ul style="list-style-type: none">乾電池が消耗している。→2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 カセットが入っていない。 カセットのツメが折れている。→録音内容を消してもよい場合は穴をふさぐ。 録音 / 再生ヘッドが汚れている。→クリーニングする。 VOR機能使用時にマイク感度の調整が不適切。 接続が正しくない。
ラジオに雑音が入る、音が悪い	<ul style="list-style-type: none">選局やアンテナの調節が充分でない。 電波が弱い。→なるべく窓際で聞く。
再生ボタンを押しても再生されない。	<ul style="list-style-type: none">うら面状態でテープが終わりまで巻き取られている。
操作ボタンを押しても動作しない。	<ul style="list-style-type: none">乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない。→向きを確認して入れなおす。 乾電池が消耗している。→2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 一時停止になっている。 ACパワーアダプターを本体につないだまま、乾電池で使おうとしている。
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">音量が最小になっている。 イヤホンが差し込まれてる。
再生速度が速すぎたり遅すぎたりする。音質がよくない。	<ul style="list-style-type: none">テープスピードスイッチが「定速」以外の位置にある。
音が小さい。音質がよくない。雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none">音量が絞られている。 乾電池が消耗している。→2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 ヘッド部が汚れている。→クリーニングする。 カセットテープをスピーカーの上に直接置いていた。(直接置くとも音質が劣化することがあります。) TYPE II(ハイポジション)、TYPE IV(メタル)のテープを使っている。
録音が途中で止まる。	<ul style="list-style-type: none">VOR機能が働いている。VOR機能を使用しないときはスイッチを「切」にする。
前の音が完全に消えない。	<ul style="list-style-type: none">消去ヘッドが汚れている。→クリーニングする。 TYPE II (ハイポジション)、TYPE IV (メタル)テープを使っている。→録音できるテープはTYPE I(ノーマル)のみです。
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none">近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。→携帯電話などを本機から離して使用する。

ラジオに雑音が入る、音が悪い	<ul style="list-style-type: none">選局やアンテナの調節が充分でない。 電波が弱い。→なるべく窓際で聞く。
再生ボタンを押しても再生されない。	<ul style="list-style-type: none">うら面状態でテープが終わりまで巻き取られている。
操作ボタンを押しても動作しない。	<ul style="list-style-type: none">乾電池の⊕と⊖の向きが正しくない。→向きを確認して入れなおす。 乾電池が消耗している。→2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 一時停止になっている。 ACパワーアダプターを本体につないだまま、乾電池で使おうとしている。
スピーカーから音が出ない。	<ul style="list-style-type: none">音量が最小になっている。 イヤホンが差し込まれてる。
再生速度が速すぎたり遅すぎたりする。音質がよくない。	<ul style="list-style-type: none">テープスピードスイッチが「定速」以外の位置にある。
音が小さい。音質がよくない。雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none">音量が絞られている。 乾電池が消耗している。→2本とも同じ種類の新しいものと交換する。 ヘッド部が汚れている。→クリーニングする。 カセットテープをスピーカーの上に直接置いていた。(直接置くとも音質が劣化することがあります。) TYPE II(ハイポジション)、TYPE IV(メタル)のテープを使っている。
録音が途中で止まる。	<ul style="list-style-type: none">VOR機能が働いている。VOR機能を使用しないときはスイッチを「切」にする。
前の音が完全に消えない。	<ul style="list-style-type: none">消去ヘッドが汚れている。→クリーニングする。 TYPE II (ハイポジション)、TYPE IV (メタル)テープを使っている。→録音できるテープはTYPE I(ノーマル)のみです。
雑音が入る。	<ul style="list-style-type: none">近くで携帯電話などの電波を発する機器を使用している。→携帯電話などを本機から離して使用する。

主な仕様

ラジオ部	
受信周波数	TV：4 - 12 ch <p>FM/TV：76 - 108 MHz (1 - 3ch) <p>AM：530 - 1,629 kHz</p></p>
アンテナ	FM/TV：ロッドアンテナ <p>AM：フェライトバーアンテナ内蔵</p>

テープレコーダー部・共通部	
トラック形式	2トラック1チャンネル　モノラル
スピーカー	直径　約36 mm.8　1個
内蔵マイク	無指向性フラットマイク
再生スピード	3段切り換え(速い：+約30%、定速、遅い：-約20%)
周波数範囲	TYPE I(ノーマル)カセット <p>80 - 8,000 Hz(EIAJ) <p>マイク(ミニジャック/プラグインパワー対応)1個</p></p>
入力端子	最小入力レベル　0.2 mV <p>インピーダンス 3 k　以下のマイク用</p> <p>イヤホン(ミニジャック)1個</p> <p>負荷インピーダンス　32</p>
出力端子	
実用最大出力	350 mW　(EIAJ/DC)
電源	DC 3 V、単3形乾電池　2本使用 <p>DCジャック(定格DC 3V) <ul style="list-style-type: none">別売りACパワーアダプターAC-E30Lを接続してAC 100 Vから使用可能。 別売りカーバッテリーコードDCC-E230を接続して12 V/24 V自動車バッテリーから使用可能。</p>
最大外形寸法	約115.9×88.7×41.5mm(幅/高さ/奥行き)×EIAJ)
質量	本体約 260 g <p>ご使用時約 310 g(乾電池含む)</p>
付属品	ソニー乾電池R6P (NS) (2) <p>取扱説明書 (1) <p>保証書 (1) <p>ソニーご相談窓口のご案内 (1)</p></p></p>
別売りアクセサリ	イヤホン　ME-L82 <p>ヘッドイレーサー・クリーナー　HE-6C <p>クリーニングキット　KK-41</p></p>

^{*}EIAJ(日本電子機械工業会)規格による測定値です。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店で受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容を確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

*調子が悪いときはまずチェック*をこの説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときは**サービス**へお買い上げ店または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

*保証期間中の修理*は保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

*保証期間経過後の修理*は修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

*部品の保有期間*について

当社ではラジオカセットコーダーの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能な期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、お買い上げ店またはサービス窓口にご相談ください。なお、補修用性能部品の保有期間は通商産業省の指導にもよるものです。

Sony online　http://www.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

<p>ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35</p>
<p>お問い合わせはお客ご相談センターへ</p> <p>●東京(03)5448-3311 ●名古屋(052)232-2611 ●大阪(06)6539-5111</p>